

第 6 章 結果のまとめ

1. 調査間の比較

ここでは、中学生・高校生相当年齢（12～17 歳）、若者・青年（18～39 歳）、中高年（40～64 歳）の調査において、共通の設問から、年代別の比較を行う。

（1）あなたは、ふだんどのくらい外出しますか。

外出頻度をみると、「仕事や学校、習いごとで平日は毎日外出する」は年代が下がるほど、高くなる傾向にある。

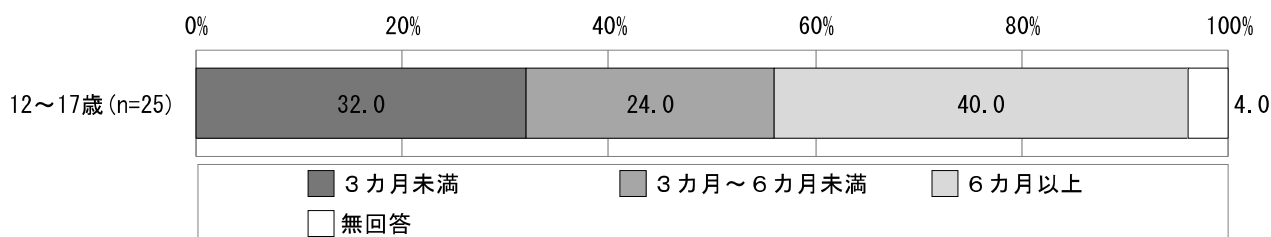
また、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自分の部屋からは出るが、家からは出ない」「自分の部屋からほとんど出ない」の合計は、12～17 歳で 4.4%、18～39 歳で 7.3%、40～64 歳で 7.0%となっている。

(%)	仕事や学校、 習いごとで 毎日外出する	仕事や学校、 習いごとで週に 3～4 日 外出する	遊び等でよく 外出する	人づきあいの ためにときどき 外出する	ふだんは家 にいるが、 趣味に 関する用事 のときだけ 外出する	ふだんは家 にいるが、 近所の コンビニ などには 出かける	自分の部屋 からは出る が、家 からは 出ない	自分の部屋 からほとん ど出ない	無回答
12～17歳 (n=573)	78.9	6.8	3.5	2.3	2.3	1.4	0.7	0.0	4.2
18～39歳 (n=405)	67.4	12.8	5.9	3.7	4.4	2.2	0.2	0.5	2.7
40～64歳 (n=523)	61.8	18.7	3.4	5.5	2.9	3.1	1.0	0.0	3.6

※以下（２）～（５）は、（１）で「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自分の部屋からは出るが、家からは出ない」「自分の部屋からほとんど出ない」と回答した人への質問

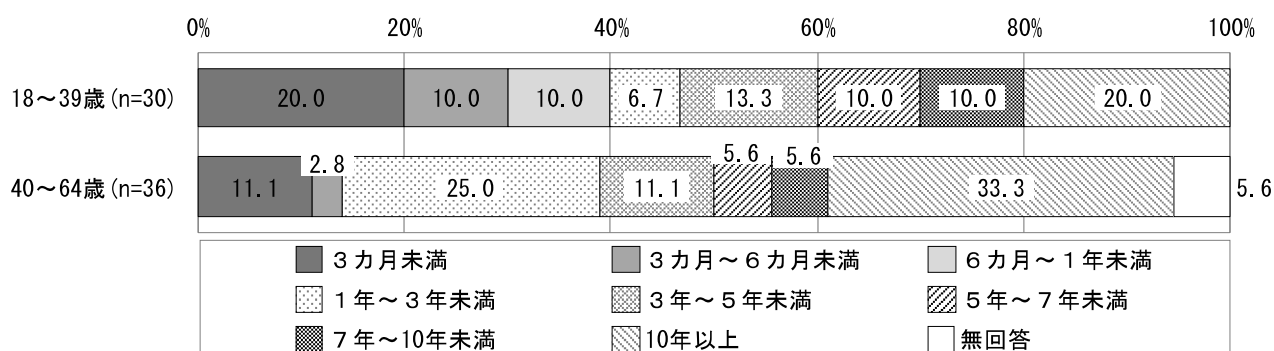
（２）あなたの外出状況が今のようになって、どのくらい経ちますか。

12～17 歳の回答をみると、「6 カ月以上」は 40.0%となっている。



18～39 歳の回答をみると、「10 年以上」は 20.0%となっている。

40～64 歳の回答をみると、「10 年以上」は 33.3%となっている。



(3) あなたの外出状況が今ようになった主な理由は何ですか。(いくつでも)

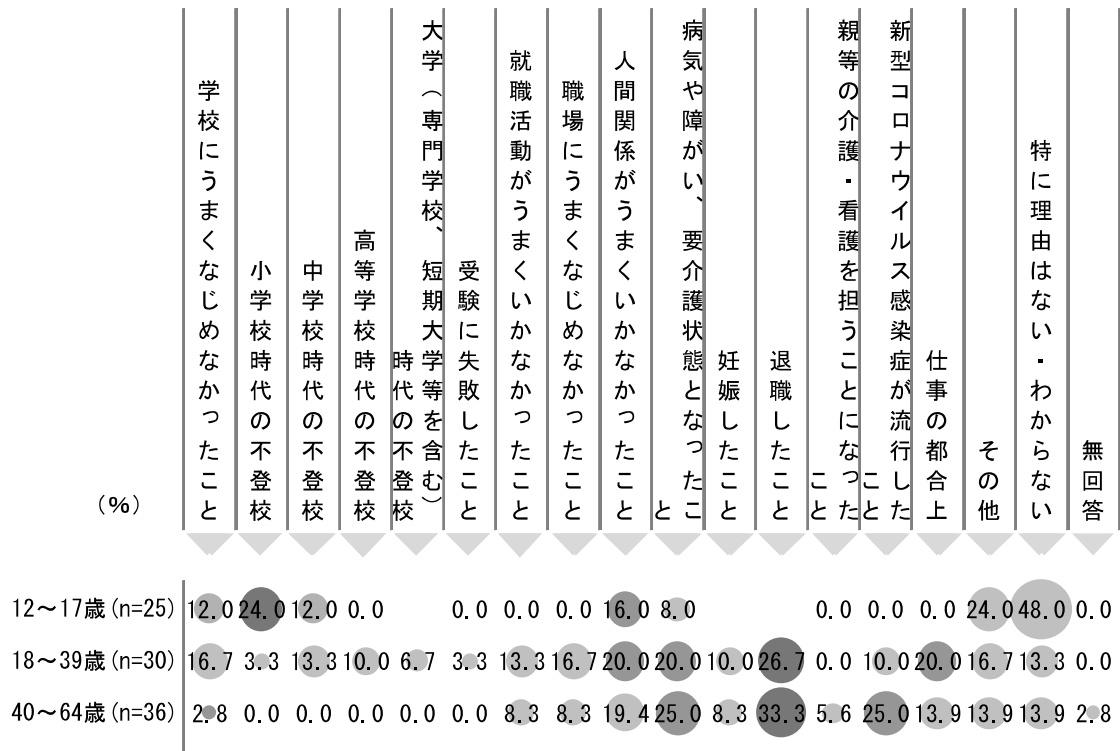
12～17歳の回答をみると、「特に理由はない・わからない」が48.0%と最も高くなっている。

18～39歳の回答をみると、「退職したこと」が26.7%と最も高くなっている。

40～64歳の回答をみると、「退職したこと」が33.3%と最も高くなっている。

若年層では、学校での理由、年代が上がるほど、仕事での理由が主要因になっている

一方、「人間関係がうまくいかなかったこと」は、すべての年代で2割程度となっている。



(4) 【中高生】これから誰かに手助けしてほしいことなどがありますか。(いくつでも)

【若者・青年及び中高年】あなたにとって、これから必要と思われる支援などがありますか。(いくつでも)

12～17歳の回答をみると、「特に必要なことはない・現状でよい」が56.0%と最も高くなっている。

18～39歳の回答をみると、「身体・精神面の専門機関への相談」と「特に必要なことはない・現状でよい」が、それぞれ40.0%と最も高くなっている。

40～64歳の回答をみると、「特に必要なことはない・現状でよい」が27.8%と最も高くなっている。

年代問わず、10%以上の項目は、「友だちや仲間づくり」「趣味を見つけたり、趣味活動をしたる場所」「身体・精神面の専門機関への相談」「気軽に立ち寄れるサロンや居場所」となっている。

(%)	友だちや仲間づくり	趣味を見つけたり、趣味活動をしたる場所	身体・精神面の専門機関への相談	訪問による相談の機会	就労に向けた準備、職場の紹介	短時間でも働ける職場の紹介	生活費についての相談	気軽に立ち寄れるサロンや居場所	自立に向けた支援全般	家族への支援（家族会等）	一人一人をサポートする、ひきこもり専門の相談・支援機関の設置	その他	特に必要なことはない・現状でよい	無回答
12～17歳 (n=25)	24.0	28.0	16.0	0.0	8.0	4.0	4.0	20.0	8.0	4.0		0.0	56.0	0.0
18～39歳 (n=30)	26.7	33.3	40.0	3.3	33.3	23.3	23.3	16.7	26.7	10.0	13.3	6.7	40.0	0.0
40～64歳 (n=36)	16.7	19.4	25.0	5.6	16.7	25.0	8.3	16.7	8.3	11.1	0.0	8.3	27.8	2.8

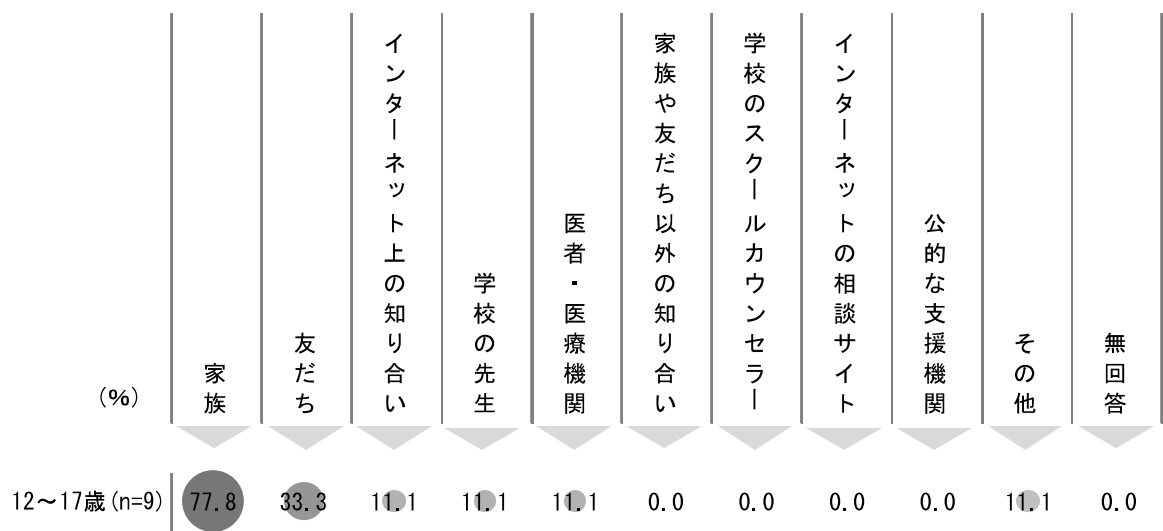
(5) 【中高生】相談した相手は誰ですか。(いくつでも)

※「あなたの現在の状況を誰かに相談したことはありますか。」で「相談したことがある」と回答した人への質問

【若者・青年及び中高年】相談した先はどこですか。(いくつでも)

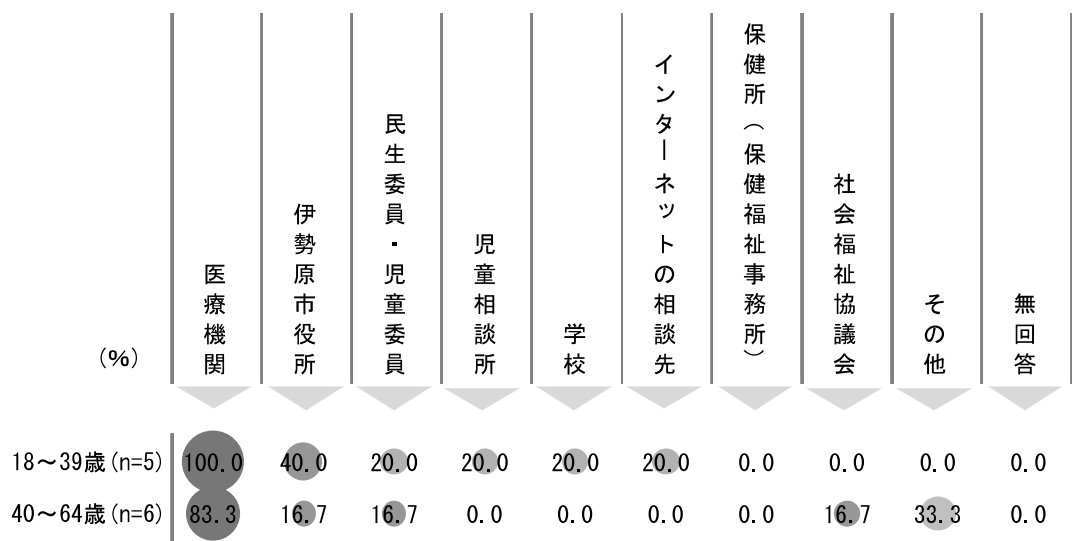
※「あなたは、現在のあなたの状況を家族や知り合い以外に相談したことはありますか。」で「相談したことがある」と回答した人への質問

12～17歳の回答をみると、「家族」が77.8%と最も高くなっている。



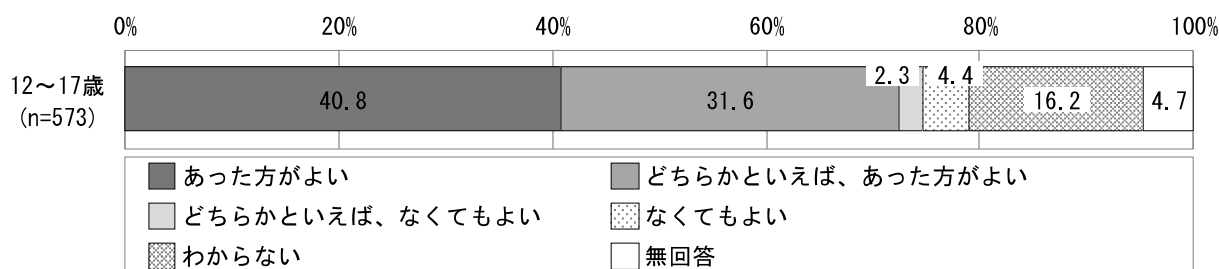
18～39歳の回答をみると、「医療機関」が100.0%と最も高くなっている。

40～64歳の回答をみると、「医療機関」が83.3%と最も高くなっている。



（６）【中学生】伊勢原市にひきこもり・不登校専門の相談機関（支援センター）があるとよいと思いますか

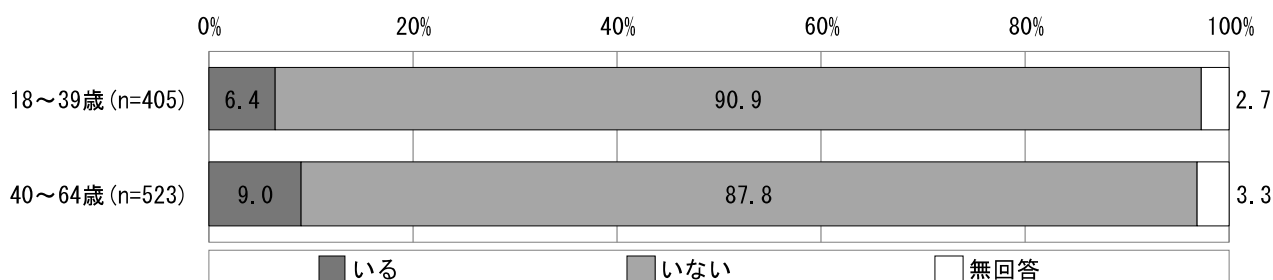
12～17歳の回答をみると、「あった方がよい」が40.8%と最も高く、「どちらかといえば、あった方がよい」が31.6%と続いている。



（７）【若者・青年及び中高年】あなたのご家庭には、あなた以外で次のような方はいますか。

- ・ 学校や仕事に行かず、ほとんどの時間を家で過ごす。
- ・ 家族以外とは、ほとんど話さない（全く話さないを含む）。

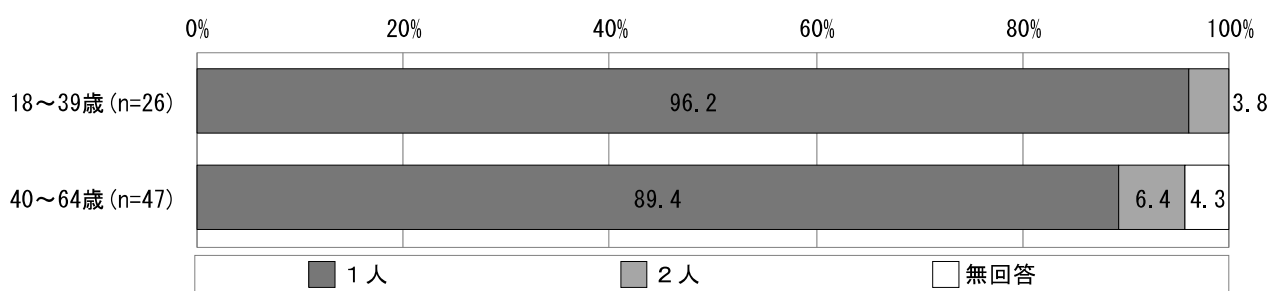
「いる」は、18～39歳で6.4%、40～64歳で9.0%となっている。



（８）【若者・青年及び中高年】その方は何人いますか。

※（７）で「いる」と回答した人への質問

「１人」は18～39歳で96.2%、40～64歳で89.4%、「２人」はいずれも10%未満となっている。

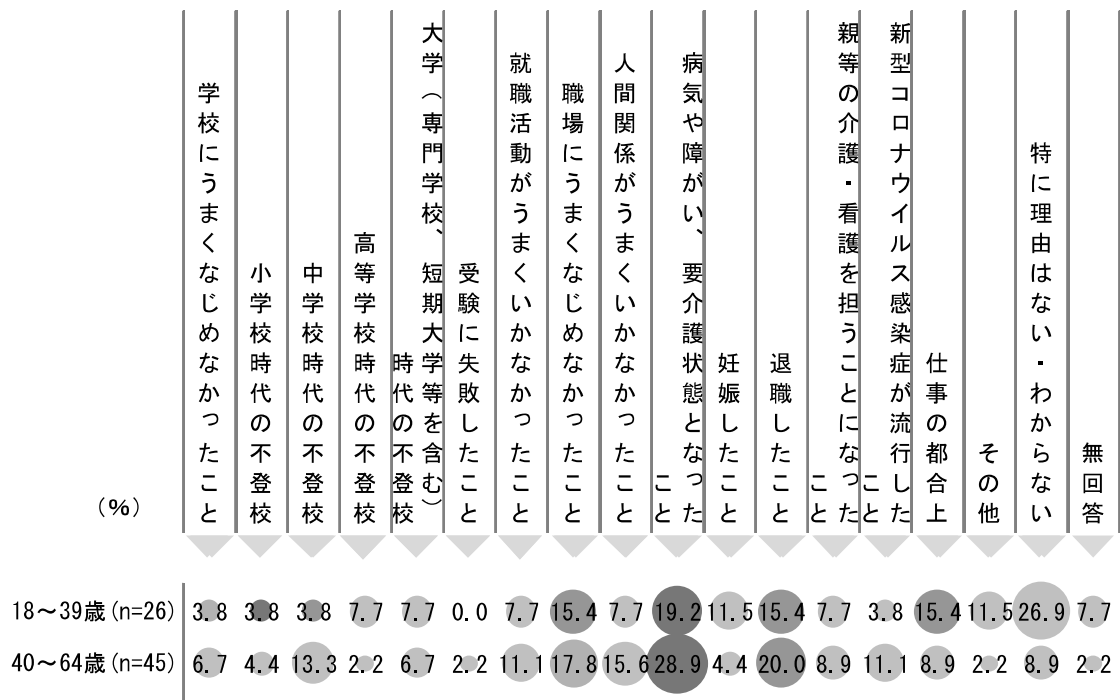


(9)【若者・青年及び中高年】その方の外出状況が現在の状態となった主な理由は何ですか。(いくつかでも)(2人目も含む)

※(8)で「1人」「2人」と回答した人への質問

18～39歳の回答をみると、「特に理由はない・わからない」が26.9%と最も高くなっている。

40～64歳の回答をみると、「病気や障がい、要介護状態となったこと」が28.9%と最も高くなっている。

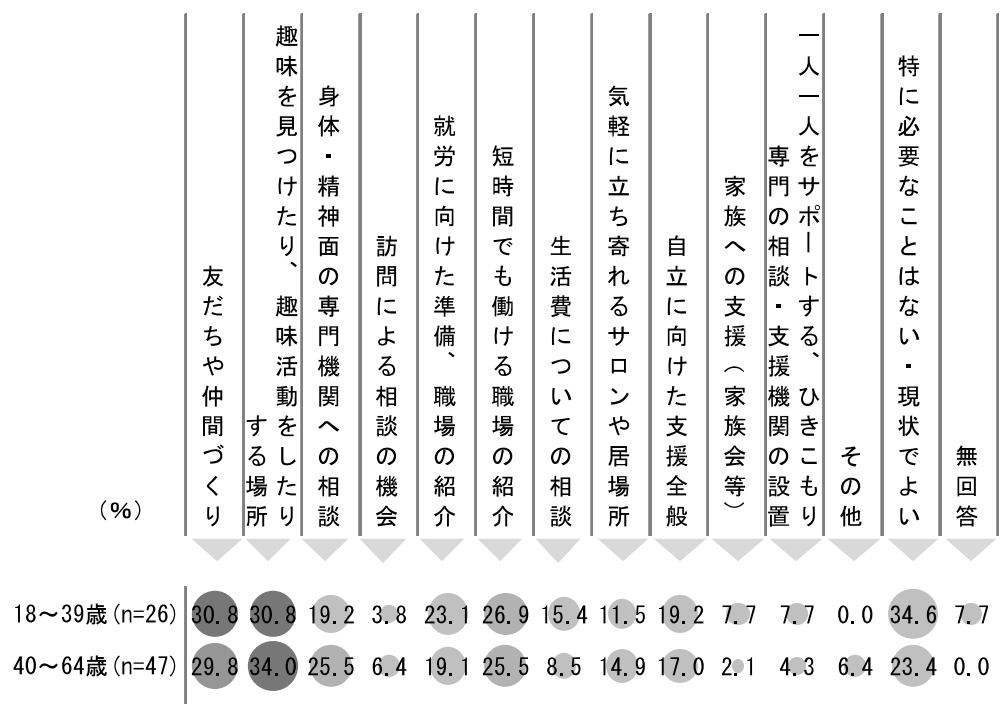


(10) 【若者・青年及び中高年】その方にとって、これから必要と思われる支援などがありますか。
(いくつでも)

※(7)で「いる」と回答した人への質問

18～39歳の回答をみると、「特に必要なことはない・現状でよい」が34.6%と最も高くなっている。

40～64歳の回答をみると、「趣味を見つかったり、趣味活動をした場所」が34.0%と最も高くなっている。



2. 結果の分析

今回の調査結果を基に結果を分析したひきこもりに関する結果のn数（ひきこもりに該当すると思われる人の数）は、100件未満であるため、統計的な信頼性が高いサンプル数になっていない。そのため、あくまで参考値として分析を行う。

（1） 調査結果に基づく、ひきこもり状態にある人の数

①ひきこもり群の定義

設問「ふだんどのくらい外出しますか」で、下記を選択した人

- ・自分の趣味に関する用事のみだけ外出する。 ・近所のコンビニなどには出かける。
- ・自室からは出るが、家からは出ない。 ・自室からほとんど出ない。

かつ、設問「現在の状態となって、どのくらい経ちますか。」で、「6か月以上」と回答した人

②「ひきこもり群」の定義に当てはまる人の数(本人)

調査区分	ひきこもり群人数	調査人数	該当割合
中学生・高校生相当年齢 (12歳～17歳)	10人	573人	1.74%
若者・青年 (18歳～39歳)	21人	405人	5.18%
中高年 (40歳～64歳)	29人	523人	5.54%
合計	60人	1,501人	4.00%

③【参考】「ひきこもり群」の定義に当てはまる人の数（本人）」から、設問「外出状況が今ようになった主な理由」で、

- ・病気や障がい、要介護状態になった・親等の介護・仕事の都合・妊娠と回答した人を除いた人の数

調査区分	ひきこもり群人数	調査人数	該当割合
中学生・高校生相当年齢 (12歳～17歳)	10人	573人	1.74%
若者・青年 (18歳～39歳)	10人	405人	2.46%
中高年 (40歳～64歳)	13人	523人	2.48%
合計	33人	1,501人	2.19%

④【参考】ひきこもり状態にある推計人口

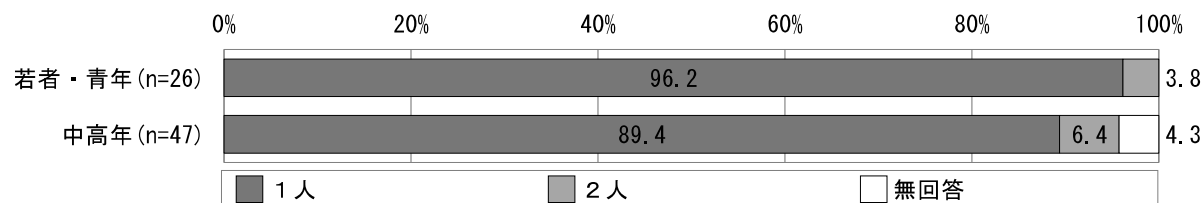
令和6年4月1日現在の「対象年齢人口」に③の「該当割合」を乗じて算出。

調査区分	対象年齢人口	該当割合	ひきこもり状態にある推計人口
中学生・高校生相当年齢 (12歳～17歳)	4,992人	1.74%	87人
若者・青年 (18歳～39歳)	24,920人	2.46%	615人
中高年 (40歳～64歳)	34,851人	2.48%	866人
合計	64,763人	2.19%	1,568人

⑤【参考】「設問あなたのご家庭には、あなた以外で次のような方は何人いますか。」の回答割合から推測される、ひきこもり状態にある人数

- ・学校や仕事に行かず、ほとんどの時間を家で過ごす
- ・家族以外とは、ほとんど話さない(全く話さない)

※若者・青年(P31)及び中高年(P53)のみ調査実施



この結果は 75 人が該当となった。

(2) 原因

[グラフは P102 を参照]

設問「あなたの外出状況が今ようになった主な理由は何ですか(いくつでも)」

- ・中学生・高校生相当年齢 (12 歳～17 歳)

「特に理由はない・分からない」が 48.0%と最も高く、「小学校時代の不登校」が 24.0%、「人間関係がうまくいかなかったこと」が 16.0%であった。

- ・若者・青年 (18 歳～39 歳)

「退職したこと」が 26.7%と最も高く、「人間関係がうまくいかなかったこと」と「病気や障がい、要介護状態となったこと」と「仕事の都合上」が、それぞれ 20.0%であった。

- ・中高年 (40 歳～64 歳)

「退職したこと」が 33.3%と最も高く、「病気や障がい、要介護状態となったこと」と「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」が、それぞれ 25.0%であった。

ひきこもりになった原因を見ると、本人、家族ともに学生時代は「学校」、成人してからは「仕事」が多くを占めることがわかる。また、年代を問わず「人間関係がうまくいかなかった」ことを原因に挙げている割合も多くなっている。

これらの原因については、関係団体からの回答とも、おおむね一致している。

(3) 支援の方向性

[グラフは P103 を参照]

設問【中高生】「これから誰かに手助けしてほしいことなどがありますか。(いくつでも)」

【若者・青年及び中高年】「あなたにとって、これから必要と思われる支援などがありますか。(いくつでも)」

- ・中学生・高校生相当年齢 (12 歳～17 歳)

「特に必要なことはない・現状でよい」が 56.0%と最も高く、「趣味を見つけたり、趣味活動をしたる場所」が 28.0%、「友だちや仲間づくり」が 24.0%であった。

- ・若者・青年 (18 歳～39 歳)

「身体・精神面の専門機関への相談」と「特に必要なことはない・現状でよい」が 40.0%と最も高く、「趣味を見つけたり、趣味活動をしたる場所」と「就労に向けた準備、職場の紹介」が、それぞれ 33.3%であった。

- ・中高年（40 歳～64 歳）

「特に必要なことはない・現状でよい」が 27.8%と最も高く、「身体・精神面の専門機関への相談」と「短時間でも働ける職場の紹介」が、それぞれ 25.0%であった。

- ・関係団体

[グラフは P96 参照]

設問「ひきこもり状態の方への支援の充実に向けて、今後必要と思われる取り組みは何ですか？（いくつでも）」に対し、「複合的な相談内容や課題に対応する相談窓口の設置」が 50.0%、「支援団体等や支援に係る人材育成、関係機関のネットワークづくり」が 37.7%、「家族への相談支援」が 33.7%であった。

次に「ひきこもりについて理解するための、一般市民を対象とした講演会の開催」が 26.2%だった。

【調査結果から必要と考えられる支援】

① 事業周知への取組

設問「伊勢原市や近隣にある子ども・若者向けの相談事業、情報発信サイトについて、知っているものはあるか」に対し、「知っているものはない」と回答した割合が、中学生・高校生相当年齢（12 歳～17 歳）は 51.3%（P16 参照）、若者・青年（18 歳～39 歳）は 71.1%（P40 参照）、中高年（40 歳～64 歳）は 65.2%（P62 参照）と、半数以上の人に認識されていないことが分かった。また、中学生・高校生相当年齢においては、ひきこもり群以外は 51.3%が何かしらの事業・サイトを認知しているが、ひきこもり群だと 80.0%が認知しておらず、届くべき人に届いていない実情があると考えられる。

現時点では特に必要がない人でも、今後、自分自身や周りの人が困ったときに相談できる場所を知っておいてもらうためにも、引き続き幅広い層に対し、さまざまな方法での周知が必要だと考える。

ひきこもりの状態に悩む子ども・若者とその保護者に相談窓口があることを知ってもらえるよう、今回調査に協力をいただいた関係団体等の協力を得て、組織的に広く事業を周知し、支援に取り組んでいく必要がある。

また、現時点では特に相談や支援の必要がない人でも、今後、自分自身や周りの人が困ったときに相談できる場所を知っておいてもらうために、引き続き幅広い層に対し、さまざまな方法での周知が必要だと考える。

② 支援に取り組む関係機関によるネットワークの強化

ひきこもり状態の方への対応を検討するにあたり、必要な支援をみると、本人の回答は年代問わず、「友だちや仲間づくり」、「趣味を見つけたり、趣味活動をしったりする場所」、「身体・精神面の専門機関への相談」、「気軽に立ち寄れるサロンや居場所」の割合が高くなっている。

不登校や退職などの原因によって『居場所』がなくなり、新たな自分の『居場所』を求めていることが推測される。

また、関係団体調査から、支援における課題をみると、「支援対象者を相談につなげること」と「支援対象者を発見し、接触すること」が約 5 割となっている。さらに自由記述では、「情報交換の必要性」、「実態の把握」などが課題に挙がっており、当事者との接点を持つことが難しいということが読み取れる。ひきこもり状態の方への支援の充実に向けて、今後必要と思われる取り組みについては、「複合的な相談内容や課題に対応する相談窓口の設置」が 50.0%と最も高く、多くの団体が、接点を持つための窓口や、関係機関とのネットワークを必要としている。

これらの回答から考えると、『居場所』を求めている人たちと、支援団体との接点をいかに構築していくかが、大きな課題といえる。

本市では、令和6年3月にひきこもり支援プラットフォームを立ち上げ、神奈川県ひきこもり地域支援センター、平塚保健福祉事務所秦野センター、平塚児童相談所、ハローワーク平塚、県央地域若者サポートステーション、伊勢原警察署及び庁内関係課と連携協働体制を築いている。今後は更にプラットフォームの関係機関の範囲を広げて、ネットワークを強化させ、ひきこもり状態にある本人に適した支援及び保護者が求める支援に取り組むことが必要と考える。

③ 中高生時代から将来に向けた継続的な支援

中学生・高校生相当年齢（12歳～17歳）の設問「これから誰かに手助けしてほしいこと」に対する回答の中で、最も多かったのは、「特に必要なことはない・現状でよい」56.0%である。この回答は、年齢が上がるにつれて割合が低下し、中高年では27.8%になる。

このことから、年齢が若い人は「現状で良い」と考えるが、その人たちが年齢を重ねた将来、ひきこもりの現状から変化することを望むようになることが想定される。

18歳以上で「就労に向けた準備・職場の紹介」、「短時間でも働ける職場の紹介」を求める割合が高いことを考えると、中高生の時代から「友だちや仲間づくり」、「趣味を見つけたり、趣味活動をしたりする場所づくり」に関する支援に取り組むとともに、学校卒業後を見据えた就業支援の充実を図る等、継続的な支援に取り組むことで、ひきこもり状態に悩むこども・若者が、ひきこもり状態から抜け出し、後戻りをしないための一歩を踏み出すことに繋がると考える。

（４）まとめ

今回、本人、家族、関係団体の3つの側面から調査を行った。2022年度に内閣府が行った「こども・若者の意識と生活に関する調査」では、ひきこもり状態にある人は、15～39歳で2.05%、40～64歳で2.02%おり、全国の数字にあてはめると約146万人と推計されていて、本人の回答から推測される本市のひきこもり群の該当割合は、一概に同じとは言えないが、これに近い結果となった。

一般的に、ひきこもりはその状態が長いほど、社会復帰までに時間がかかると言われている。ひきこもりの原因に限らず、何か困った際には、信頼できる誰かや、専門機関に相談するという選択肢を知っていること、すぐに相談できること、その人に適した支援が受けられることが大切であり、早い段階で問題を解決できるような仕組みづくりが必要である。

上述の「調査結果から必要と考えられる支援」への取り組みと合わせて、ひきこもりが長期化しないための対策、そして長期的にケアをしていく方法を早急に考え、一人ひとりの状況に応じて地域全体で支援できるよう、関係各所と連携して取り組んでいきたい。